

C D - R と C D - R W に つ い て (2)

CD-Rの焼き方(書き込み方)にはいくつかの方法があります。実際は書き込み用のソフトで行っているため使い方にあった焼き方があることはわかりませんが、用途によっていくつかの焼き方があります。

まず、ディスクアットワンス(Disk At Once(DAO))という焼き方で、1枚のディスクに対してリードインからリードアウトまでレーザを途切らせずに1回で焼き込むやり方で、トラックの追加はもちろん、セッションの追加書き込みもできません。ただし、元のCDを忠実に複製する特性があるため、大量生産を行うマスターCDの作成には向いています。

次は、トラックアットワンス(Track At Once(TAO))という焼き方で、書き込み時にトラック単位でデータを書き込む方式です。データ、リードイン、リードアウトの順で書き込みを行い、データの後にデータアウトを書き込まないことによってセッションをクローズしないため、セッションをクローズするまでトラックの追記が可能となっています。ただし、セッション内のデータの並びとしては、リードイン、データ、リードアウトの順でリードイン部分は書き込む前に領域が確保されています。しかし、セッションをクローズするまではCD-ROMで再生ができず、トラック間にはリングブロックという継ぎ目ができてしまうため、マスターCDの作成には向いていません。また、セッションの追加が可能のため1枚のCDの中に複数のセッションが存在するマルチセッションのCDを作成することができます。ただ、マルチセッションの場合はセッション毎にリードインとリードアウトの領域が必要なため、1回の書き込みに対して13~22MBの容量が必要となります。

FDやHDの感覚で使える焼き方にパケットライト(Packet Write)という方法があります。この方法は、FDやHDのようにCD-RやRWのメディアに対して独自のフォーマットを行い、ドラッグ&ドロップでの書き込みが可能になっています。ただし、いろいろなメーカーからパケットライトのソフトが発売されていますが、互換性がないのと使える機種が限定されているのが欠点です。また、フォーマットするためにCD-Rで数十分、CD-RWで10分近く時間がかかります。

大量データを書き込んでCD-ROMを作り、他のパソコンのCD-ROMドライブで使ってみたい。自分のオリジナルの音楽CDを作ってみたいなどCD-R/RWのドライブを利用しようとする場合にはいろいろと考えるものと思います。しかし、なかなかFDの代りに使うというわけにはいかない部分もあるようで、使用目的にソフトが合っているのか。互換性の問題など注意すべき点はいろいろあるようです。なかなかFDの代りとして使うわけにはいかないようです。しかし、内蔵HDが大容量化し、大事なデータをバックアップしたり、いろいろなプログラムを入れることによって障害が発生する前にバックアップCDを作るには便利なようです。

(連載終了)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 4月10日号

特集 頂上作戦

→2月にプレイステーション2が発売となり、それに対抗するようにマイクロソフトが「X-Box」を発表した。パソコンというものが無くなりつつある現状においてマイクロソフトが打ち出したゲーム機だが、1年半先に出すものが果たして性能、価格でどの程度の販売ができるか。

解説 小型燃料電池の搭載車や携帯機器つなぐ車内LANが登場

→3月に開かれたアメリカ最大の自動車関連技術の会議で、最も盛り上がったのは燃料電池。展示会では携帯型情報機器を接続できる車内LANや、情報機器の中核となるインターネット、音声認識対応の多機能カーナビが目をつけた。

○日経パソコン 4月3日号

特集 お答えしますパソコンの疑問50

→初心者からベテランまでのパソコンユーザに送る、パソコンに対する疑問50を本体、ソフト、周辺機器、通信、モバイル、買い物の各ジャンルに分けて回答。

特集 300万が素地大のデジタルカメラ選び

→一斉に発売となった300万画素のデジタルカメラ。300万画素の実力と、100万、2000万画素との比較からどれを選べばいいのか。

○日経オープンシステム 4月号

特集 Office 2000活用テクニック

→ビジネス現場では必須となったOffice。機能は高いが操作が複雑で十分に使いきれてはいないのが現状。効率よく活用して不満を解消するテクニック公開。

特集 ギガヘルツ時代に突入したCPU

→AMDのAthlon、IntelのPentiumⅢがともに1GHzのCPUを発表し、ついにギガヘルツの時代に突入した。OA分野では必要ではないかもしれない高性能CPUだが、画像、音の分野では今までできなかったことができるようになる。

活用 Webを使いこなして業務の情報化を実現

→社内の情報化、仕事の生産性向上にこれまでのように自前でシステムを構築する必要はない。インターネットに接続できればいろいろなサービスがあつてすぐに情報化が実現できる。

○日経ネットビジネス 5月号

特集 米国で沸き立つe-マーケットプレイス

→アメリカではインターネット上に仮想市場(e-マーケットプレイス)が立ち上がっている。これまではベンチャー主体であったが、GMやフォードなどの伝統的大企業までが仮想市場の立ち上げに躍起になっている。

特集 勝ち抜くためのネット広告

→インターネットによる広告が広がり、広告メディアとして位置付け本格的に取り組む企業が増えている。バナー広告や特定ユーザに対するメール広告の配信などいろいろな広告メディアがある。

○DOS/V magazine 5月1日号

特集 春の導入研修2000 自作PC完全マニュアル

→PCがどういうものであるかを理解するための自作PCの導入研修。パーツ選びからトラブル対象法まで。

特集 快樂! MPEGキャプチャーへの誘い

→動画をパソコンに取り込むことが簡単になってきている。これまではAVI方式のキャプチャーが一般的であったが、DVカメラの登場、IEEE1394カードの低価格化、大容量HDDの低価格化、CPU性能の向上でMPEGのリアルタイムエンコードまでが可能になっている。動画をMPEGで取り込み利用するには。